

クローバー

秋田県立視覚支援学校
ロービジョン支援センター
令和3年7月9日発行
第2号

点字ブロックについて

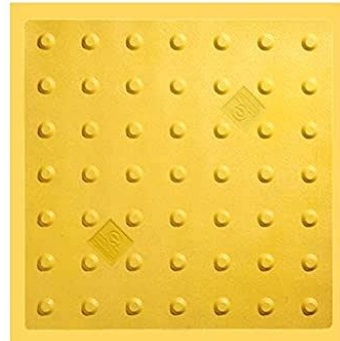


「点字ブロック」は「視覚障害者にとって歩行の際の道標である」と言われることがあります。全盲者だけではなく強度の弱視者などの視覚に障害がある者にとって、点字ブロックは単独で歩行する際に目的地まで安全に誘導してくれるとても大切なツールなのです。

点字ブロックには①前進のための「誘導ブロック」と②一時停止や方向転換などを知らせる「警告ブロック」の二種類があります。



←①「誘導ブロック」
細長い突起を並べた線状のブロック。道路や屋内の通路に敷設し、視覚障害者を誘導します。



←②「警告ブロック」
丸い突起を並べた点状のブロック。道の分岐点やプラットホームの縁など何か変化があることを警告します。

カーブや曲がり角、横断歩道など、それぞれの場所に応じて適切に配置されていることで、事故を回避しながら歩行することができるのです。そのため点字ブロックの通路上に自転車や旅行者用のカートなどがあったり、立ち止まっている人がいたりする場合は、気付くことができずぶつかってしまう可能性があります。つまり、安全と安心の環境が損なわれるということになります。

是非、点字ブロックは視覚障害者にとってとても大きな意味をもつものであることを御理解いただきたいと思います。

(文責：佐々木道吉)



誘導ブロックから警告ブロックへ



階段やエレベーターを知らせる警告ブロック



便利でおしゃれ！これもユニバーサルデザイン ～腕時計～

視覚に障害がある方のユニバーサルデザインといえば、お札にある指の感触で識別できるマークやシャンプーのきざみなどが有名ですが、今回はユニバーサルデザインのおしゃれな製品を紹介します。

時刻を確認するのに欠かせない「時計」。しかし、視覚に障害のある人の中には、時刻を示す針や数字を見ることができない人もいます。音で知らせるタイプのもものありますが、場所によっては使うことをためらってしまうかもしれません。今回は、本校の生徒も使っている「さわる時計 Bradley(ブラッドリー)」を紹介します。

時計の表面と側面に金属製の「小さなボール」がはめ込まれていて、このボールを触ることで時間が分かるようになっています。また、デザイン性にも優れているため、視覚に障害のある人に限らず、すべての人がファッションの一つとして愛用できる魅力的な時計となっています。「さわる時計 Bradley」は針の代わりに、「小さなボール」が内部に組み込まれた磁石にしたがって移動するようになっています。外周にあるものが短針(時)を、内周にあるものが長針(分)の役割を果たします。また、時計表面の表示「12時・3時・6時・9時」の時刻と「5分刻み」は、触れば簡単に区別することができるように形が変えられています。内部に組み込まれた磁石の力で移動しているので、小さなボールが動いて時刻がずれてしまっても、軽く振るだけで正確な時刻に戻すことができます。



使用してみたの視覚に障害がある方の感想(サイトからの引用)

『普段、フタを開けて針を直接触るタイプの腕時計を使用しています。フタを開ける手間がないことに驚いたとともに、「どこかにぶつけた場合に時間がずれてしまわないのだろうか」と疑問に思いました。本当に時間を正確に把握できるのかという心配があったのです。しかし、その「簡単に転がってしまう」ことこそが、この時計の大きな特徴でした。触読式時計は、その性質上、何度も時間を確認するうちに針がずれてしまうことがあり、それを手動で修正しなければなりません。この時計では、もしずれてしまっても、時計を軽く振ることで、中に組み込まれた磁石に吸い寄せられボールが自動で修正してくれるのです。また、その他の特徴で便利だと思ったことは防水性です。思いもよらず雨に降られると、まず心配になるのが「腕時計」です。この時計であれば、そのような時の雨にも対応できます。ちなみに触読式時計で防水対応のものは、まだないそうです。』



触読式時計

(文責：朝香 幸樹)

引用：ゆうゆうゆう 障がい者に役立つポータルサイト

乳幼児の支援について紹介

～乳幼児期の視覚は「しっかり見る」ことで発達します～

視覚障害乳幼児は、視覚からの情報が充分に得られないため外界への興味・関心をもちにくかったり、周囲の状況を把握できないことで未知なものへの不安感もちやすかったりする場合があります。そこで身近な大人との安心感のある環境を整え、幼児が自ら「見たい」「触りたい」「知りたい」という気持ちを育てることが大切です。

～「かたつむり」ってなんだろう？～（これまでの実践から）

子どもが様々な物を見る時、「これ、何だろう」「どうなってるの？」と自分から意欲をもって見るのが大切です。視覚から「自然に入ってくる情報」が少ない視覚障害乳幼児は、イメージの元になる知識が少なく、「いつの間にか自然に分かる」のが難しいことがあります。

例えば幼児に、かたつむりのイラストを提示し名前を聞いたところ、「グルグル」との答えでした。歌『かたつむり』の歌詞「頭出せ」、「めだま出せ」には「どういうこと？」といった様子が見られました。



よりはっきりと見える→見えて楽しい

小学部の友だちから「かたつむり」をもらう機会があり、拡大読書器で見たり、実際に触ったりしました。

すると…「角（つの）ってここだ！！」「ながーい！」など、じっくりと、できる限りはっきりと見たことで、たくさんの発見がありました。



視覚と他の感覚を使って体験する→分かって楽しい

「角（つの）に触ったら、なくなった！」「何で？」
「出てきた！」「またやってみよう！」「冷たいな…」
など、かたつむりが殻から出てきたところを狙って、夢中になって触り、かたつむりの不思議を感じました。

手遊びでは「かたつむりできたよ」と自信をもって見せてくれます。教師がチョキの先端（めだま）に触れると、かたつむりが縮むように指を丸める姿が見られました。



このように、私たちにとっての「あたりまえ」を意識的に経験できるようにすることで、幼児はかたつむりをよく見て、触って遊び、その特徴を捉え「かたつむり」がよく分かるようになりました。

上記のように、拡大読書器を使う以外に、ビデオカメラやタブレット端末で映して拡大して見る方法もあります。少し配慮された環境を整えることで、興味・関心を広げることができると考えます。

（文責：仲澤 美香子、石塚 さおり）

参考文献：視覚障害教育入門Q&A（ジアース教育新社）

書籍の紹介

ビジュアルブック∞ 障害のある人とともに生きる①

「目の不自由な人をよく知る本」

田中 徹二、猪平 眞里（監修）

公益財団法人 共用品推進機構（著・編集）

出版社：合同出版

発売日：2021.1.22

大型本（A4変）：104ページ

価格：4180円（税込）



本書は、共生社会の一員として、子どもたちの偏見や間違っただけの思い込みを取りのぞき、関心を持ち、障害を正しく理解するための新しい「学習図鑑シリーズ」の記念すべき第1弾として、今年1月22日に発行されました。

26人の視覚障害者に行ったアンケート結果を、「くらしのくふう」・「生活と道具」・「子どもの教育」・「社会」・「バリアフリーな社会」の5項目にまとめており、共生社会につながるヒント（指導のヒント）がたくさん載っています。

執筆には多くの視覚障害者が協力し、日本点字図書館理事長の田中 徹二氏や、元筑波大附属盲学校教員で宮城教育大名誉教授の猪平 眞理先生が監修しています。当事者の声や専門家の意見が反映されているため、「見えない、見えづらい人の世界」を大きく間違えることなく、しかも手っ取り早く知ることができると思います。

また、購入者には、希望（メールで請求）すると、テキストデータが提供されます。音声版（デージー）も日本ライトハウス点字情報センターが製作中とのことです。

なお、本学習図鑑シリーズでは、今後、みみ、ことば、からだの不自由な人を取り上げる予定だそうです。視覚以外の障害について知りたい方は、そちらもご覧ください。

（文責：照井 正道）

御相談のお問い合わせは

秋田県立視覚支援学校 ロービジョン支援センターへ御連絡ください。

相談支援担当 銭谷寿・坂本由起子・石塚さおり・林栄美子・落合久貴子

〒010-1409 秋田県秋田市南ヶ丘一丁目1番1号

TEL 018-889-8571 FAX 018-889-8575